

## ◇鳥獣被害防止総合支援事業、鳥獣被害防止都道府県活動支援事業及び鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業の評価報告(令和4年度報告)

### 1 被害防止計画の作成数、特徴等

県下27市町村のうち、26市町村が被害防止計画を策定している。  
対象鳥獣は、主にイノシシ、ニホンザル、ニホンジカとなっている。また、地域の状況によりツキノワグマや鳥類、ハクビシン、アライグマ等の小動物も対象としている。  
取組内容は、対象鳥獣の捕獲、生息状況調査、生息環境の管理、追い払い活動、捕獲の担い手育成等の取組を行い被害軽減を図る計画となっている。

### 2 事業効果の発現状況

捕獲機材の導入、生息状況調査、追い払い活動、サル複合対策、緊急捕獲事業など、地域毎に継続して取り組んだ結果、事業を実施した地区においては効果が現れており、相対的に事業効果が現れていると考えられる。今後も継続して対策を実施することで被害軽減を図っていく。

### 3 被害防止計画の目標達成状況

加害個体の増加や、生息域の拡大等により目標達成に至らない市町村もあるが、全体的には被害減少傾向にある。

### 4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

#### (1)令和4年度事業評価について

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	事業内容	達成状況	事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
韮崎市鳥獣被害防止連絡協議会	韮崎市	R2	・生息状況調査 ・捕獲機材の購入	次年度再評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・捕獲機材や防除機材の整備により、効果的な捕獲や防除ができた。</li> <li>・追い払い活動を行うことで被害防除に努められた。</li> <li>・集落環境診断を実施することにより、今まで以上に効果的な防除や、地区の防除意識の向上が図られた。今後も継続して実施することにより、市内全域の鳥獣被害に対する防除意識や、効果的な捕獲へつなげていることが必要である。</li> <li>・目標が未達成だった理由として、サルやイノシシの生息域の拡大が大きな要因を占めている。市街地へ出没することもあることから、さらなる電気柵の整備や緩衝帯の設置を検討したい。</li> </ul>	山梨県総合農業技術センター主任研究員 本田剛 捕獲、追い払い、集落診断といった複合的な対策が実施されていることは高く評価できる。今後も継続した対策を実施することにより、被害が低いレベルで維持されることを期待する。	被害金額・被害面積ともに増加し、目標は達成できなかった。 今後も引き続き、捕獲、追い払い、集落診断などの総合的な対策を進め、被害の軽減に努めていただきたい。
		R3	・追い払い活動 ・捕獲機材の購入				
		R4	・集落環境診断 ・追い払い活動 ・捕獲機材の購入				
南アルプス市鳥獣被害対策協議会	南アルプス市	R2	・捕獲機材の導入 ・追い払い活動 ・サル複合対策 ・緊急捕獲活動	○	被害状況について、全体的には被害金額・面積の減少傾向にあるが、引き続き、地域・猟友会・関係機関等と協力して追い払い活動や捕獲活動を継続していく。	山梨県総合農業技術センター主任研究員 本田剛 対象鳥獣によって差は認められるものの、被害面積については概ね目標値通りに低減されている。今後も継続した対策を期待したい。	全体としては、被害金額・被害面積ともに目標を大きく達成しており、特に追い払いや捕獲対策を実施したサル被害金額の低減が著しい。 今後も対策を継続するとともに、被害金額が増加傾向にあるニホンジカや鳥類の対策を講じることで、被害の一層の軽減を図っていただきたい。
		R3	・捕獲機材の導入 ・追い払い活動 ・サル複合対策 ・緊急捕獲活動				
		R4	・捕獲機材の導入 ・追い払い活動 ・サル複合対策 ・緊急捕獲活動				

甲斐市鳥獣害防止対策協議会	甲斐市	R2	・協議会開催 ・捕獲機材導入 ・被害状況調査	○	本事業により、実施隊の捕獲活動に用いる機材を購入し、有害捕獲を実施するとともに、被害防除のための集落環境診断といった地域と連携した学習会を実施することで、複合的な鳥獣害対策に取り組んだ。農作物の被害に遭った農業者や学習会での自衛策の周知や箱罠の設置により、農作物への被害は金額・面積とも概ね目標値を達成できているが、単価の高いブドウの被害が継続しているため、引き続き有害捕獲の強化と自衛意識の啓発に取り組んでいきたい。	山梨県総合農業技術センター主任研究員 本田剛  順調に被害が軽減されており、高く評価できる。	単価の高い作物の被害が継続しているものの、被害金額・被害面積ともに目標を大幅に達成している。 今後も捕獲や集落環境診断などの総合的な取り組みを継続的に実施することにより、被害の一層の軽減を図っていただきたい。
		R3	・協議会開催 ・捕獲機材導入 ・生息環境調査				
		R4	・協議会開催 ・捕獲機材導入 ・生息環境調査				
中央市有害鳥獣駆除対策協議会	中央市	R2	・協議会の開催 ・捕獲機材の導入 ・生態調査導入	次年度再評価	鳥獣被害防止総合対策交付金を活用し、捕獲機材の整備を充実させたことにより捕獲頭数は増加傾向にある。一方で耕作放棄地の削減や農作物残渣処理など、鳥獣を寄せ付けない対策が必要であるため、地域一体となった捕獲体制の整備・強化が今後の課題である。	山梨県総合農業技術センター主任研究員 本田剛  捕獲は概ね順調に推移している。今後も継続した対策を実施することにより、被害が軽減されることを期待する。	被害金額・被害面積ともに目標には達しなかったものの、被害は減少している 今後も、引き続き総合的な取り組みを行い、被害の減少を図っていただきたい
		R3	・協議会の開催 ・捕獲機材の導入				
山梨市鳥獣被害防止対策協議会	山梨市	R2	・捕獲機材の導入 ・被害防除 ・ICT等新技術 ・講習会の開催	○	令和2年度に作成した山梨市被害防止計画に記載した軽減目標の達成率をみると、被害金額は全体で159%、被害面積は全体で156%となり、概ね目標を達成することができた。 ハクビシンは、果樹園における被害が著しいことから、引き続きJAや農業者を巻き込み、防除の方法について普及啓発を図っていく。 イノシシは、集落周辺に棲みつき出没する事案が度々発生している。今後もくくりわな等を活用して捕獲を進めるとともに、さらに効率的な捕獲のためにICT機材を導入する予定である。	山梨県総合農業技術センター主任研究員 本田剛  ほぼ計画どおりに被害対策が実行され、高い効果を上げているようである。今後もこれら対策を実行し続けることで、被害を低いレベルで維持できるよう取り組んで頂きたい。	被害金額・被害面積ともに目標を大幅に達成している。特にサルの被害減少が顕著であり、総合的な取り組みの成果が現れていると考えられる。 更なる被害の減少のため、今後も継続して総合的な対策に取り組んでいただきたい。
		R3	・捕獲機材の導入 ・被害防除 ・講習会の開催				
		R4	・捕獲機材の導入 ・被害防除 ・講習会の開催				
甲州市鳥獣害防止対策協議会	甲州市	R2	・捕獲機材の導入 ・講習会の実施 ・生息環境管理 ・サル複合対策	次年度再評価	・くくり罠等の捕獲機材の整備により、捕獲数が増加した。 ・サルに発信機をつけて行動のデータを収集できたことで、サルの行動を予測した効率の良い捕獲活動ができるようになった ・今後は、捕獲数のさらなる増加に加え、多様な獣害に対応し、被害を抑えられる地域づくりをしていきたい。	山梨県総合農業技術センター主任研究員 本田剛  捕獲、柵の利用、生息環境管理、生息状況調査といった統合的な管理が実施されている。残念ながら被害は目標通りの低減には至っていないが、今後の継続した取り組みにより高い効果が得られることを期待する。	個体数の増加などを要因として、被害は増加傾向にあり、被害金額・被害面積ともに目標を達成できなかった。 今後は、本事業で実施した調査で得られたデータの活用した捕獲や追い払い、柵の利用等も含めた総合的な対策に積極的に取り組み、被害減少に努めていただきたい。
		R3	・捕獲機材の導入 ・被害状況調査				
		R4	・捕獲機材の導入 ・有害捕獲				
笛吹市鳥獣被害防止対策協議会	笛吹市	R2	捕獲機材導入 緊急捕獲活動	次年度再評価	イノシシ及びニホンジカの捕獲数は、事業による捕獲体制強化の効果が出ており高い水準を推移しているが、それでも被害が拡大しており、イノシシとニホンジカの繁殖力の高さが伺える結果となっている。 また、カラスやハクビシンによる被害も増加傾向にあり、被害が拡大している。	山梨県総合農業技術センター主任研究員 本田剛  捕獲のみならず、柵の利用も考慮に入れた対策についても検討してはどうか。個人単位、圃場単位での柵の利用は講習会などで技術的助言を提供することによって普及できる可能性がある。	個体数の増加などを要因として、被害は増加傾向にあり、被害金額・被害面積ともに目標を達成できなかった。 今後は捕獲のみではなく、柵の利用等も含めた、総合的な対策に積極的に取り組んでいただき、被害の低減に努めていただきたい。
		R3	捕獲機材導入 緊急捕獲活動				
		R4	・捕獲機材導入 ・緊急捕獲活動				
市川三郷町有害鳥獣対策協議会	市川三郷町	R2	・捕獲機材の導入 ・講習会の開催	次年度再評価	当初の想定よりシカ、イノシシ、サルの個体数の増加量が多かったと考えられ、結果として事業期間を通して被害が想定ほど減らなかった。	山梨県総合農業技術センター主任研究員 本田剛  捕獲のみならず、専門家による講習会を開催するなど複合的な対策が実施されている。今後の被害低減が期待できる。	個体数の増加などを要因として、被害は増加傾向にあり、被害金額・被害面積ともに目標を達成できなかった。 今後は、捕獲だけでなく、地域ぐるみでの追い払い等も含めた総合的な対策に積極的に取り組み、被害低減に努めていただきたい。

身延町有害鳥獣対策協議会	身延町	R2	・捕獲機材の導入	次年度再評価	サルやクワガタの導入によって加害個体を効率的に捕獲できるようになった。しかし、クワガタの数を上回る地域でサルの被害が発生しているため、被害軽減目標の達成に至らなかった。新たなクワガタ導入の検討や侵入防止柵の整備や簡易電気柵の設置推進により被害防止を図る。	山梨県総合農業技術センター主任研究員 本田剛 捕獲以外の対策も検討しているようである。追い払いや柵の利用など今後の複合的な対策を期待する。	被害金額・被害面積ともに目標には達しなかったものの、被害金額では前年度から引き続き減少している。 今後は、追い払いや柵の利用など今後の複合的な対策に積極的に取り組み、被低減に努めていただきたい。
		R4	・捕獲機材の導入				
早川町鳥獣被害対策協議会	早川町	R2	・捕獲機材の導入	○	クワガタを導入し、対象地域でのニホンザルの捕獲数が増加して、被害金額及び被害面積とも減少し、住民より柵が設置されたことによりニホンザルが少なくなっているとの声もある。また、くり罠及び箱罠によりニホンジカ及びイノシシの被害も減少しつつあるが、獣害被害の課題は完全には解消していない。町では追い払い花火の講習会を今後も実施し、対象地域にも追い払い花火の配布を行っていき被害軽減を図っていきたい。	山梨県総合農業技術センター主任研究員 本田剛 ワナによる捕獲は順調であり、被害も目標通り軽減されている。今後も継続した対策を期待する。	被害金額・被害面積ともに目標を大幅に達成している。 更なる被害の減少のため、今後も継続して追い払い等も含めた総合的な対策に継続的に取り組んでいただきたい。
		R3	・捕獲機材の導入				
		R4	・捕獲機材の導入				
富士川町有害鳥獣対策協議会	富士川町	R2	・捕獲機材の導入	○	サル用クワガタ罠により、農作物の被害が少なくなっている。また、箱罠、くり罠の購入により、効果的に捕獲できていることもあり、各有害鳥獣ともに、全体的に被害金額や被害面積が減少している傾向にある。しかし、まだ、目撃情報や作物被害の情報が寄せられているため、引き続き猟友会の協力のもと、作物被害の軽減を図っていく。 アライグマやハクビシンなどの小動物においては、目標値を設定していないが、既に導入している捕獲機材において被害防除が図られている。引き続き、地域との連携を図り、被害防止対策に努めていく。	山梨県総合農業技術センター主任研究員 本田剛 捕獲については順調に進んでいるようである。今後の対策として、捕獲以外の技術、例えば柵の利用、追い払いの実施、被害農家への技術的情報の提供など、複合的な対策が実施されることを期待する	被害は減少傾向にあり、被害面積については、いずれの獣種も目標を達成している。 今後も柵の利用、追い払いの実施、被害農家への技術的情報の提供など、複合的な対策を実施し、更なる被害の軽減に努めていただきたい。
		R3	・捕獲機材の導入				
		R4	・捕獲機材の導入				
富士吉田市鳥獣被害対策協議会	富士吉田市	R2	生息状況調査 追い払い活動 放任果樹除去 講習会開催 捕獲活動 捕獲機材導入	○	サルについては、GPSを活用した生息状況調査をもとに、継続した追い払いや放任果樹除去により、被害の抑制及び防止につながった。 イノシシについては、近年目撃情報及び農業被害報告が多く寄せられ、実施隊員による現地調査やくりワナの設置、箱ワナの点検整備を行った。捕獲頭数及び実施隊員出勤費の増加。 シカについても、実施隊員による現地調査やくりワナの設置を行った。農作物被害調査については、今後生息状況調査を加え、生態を把握し、対策を施すことで被害を軽減する。目撃情報は増加しているが、農業被害は減少傾向にある。捕獲頭数及び実施隊員出勤費の増加。	山梨県総合農業技術センター主任研究員 本田剛 捕獲、追い払い、環境整備と複合的な対策が実施されている点は評価できる。またシカの被害面積以外は順調に減少しており、今後も継続した対策を実施することにより、シカ被害が低く抑えられることを期待する。	ニホンジカの被害面積が増加しているが、被害金額については大幅に目標を達成している。 今後は、総合的な対策を継続することで、一層の被害軽減を図っていただきたい。
		R3	生息状況調査 追い払い活動 放任果樹除去 講習会開催 捕獲活動 捕獲機材導入				
		R4	生息状況調査 追い払い活動 放任果樹除去 講習会開催 捕獲活動 捕獲機材導入				
都留市有害鳥獣被害対策協議会	都留市	R2	・協議会の開催 ・有害捕獲 ・被害防除 ・新技術実証・普及活動	○	平成26年度に組織した「都留市有害鳥獣被害対策実施隊」の隊員に対して、導入した各種捕獲機材を活用してもらった中で、捕獲頭数が増加しており、効果的に捕獲活動を実施することができた。近年は、ニホンジカによる農作物被害等の報告が増加傾向にあるが、市補助事業を活用した農家個人での防護柵の設置に加えて、「中山間総合整備事業」による広域的な防護柵の設置も進んでおり、農作物被害の減少に期待が寄せられている。しかし、防護柵の設置地域以外への出没等も報告されるようになっているため、「駆逐用煙火」を活用した地域レベルでの追い払い体制の整備等を継続して進めて行く必要がある。基本的には、行政や猟友会に頼るだけでなく、農家自らが主体的に防除対策に取り組む必要があるため、意識啓発につながるような取り組みについても企画していく中で、地域ぐるみで活動できる体制整備を目指していききたい。 また、ニホンザルについても被害報告が増加しているため、生息状況調査を定期的に変更し、効率的、効果的な被害対策を実施していく。	山梨県総合農業技術センター主任研究員 本田剛 捕獲だけに頼らない対策を実施しており、かつその効果も着実に得られている。今後も継続した対策を期待したい。	被害金額・被害面積とも目標を大幅に達成している。 更なる被害の軽減のため、今後も、総合的な対策を継続することで、一層の被害軽減を図っていただきたい。
		R3	・協議会の開催 ・捕獲機材の導入 ・新技術実証・普及活動 ・緊急捕獲活動				
		R4	・協議会の開催 ・生息状況調査 ・有害捕獲 ・被害防除 ・新技術実証・普及活動				

大月市鳥獣害防止対策協議会	大月市	R2	・捕獲活動 ・捕獲機材の導入	○	<p>猟友会中心である実施隊は通年で活動をしており、捕獲頭数も増えていることから、捕獲活動の方向性として問題ないと考えている。しかし、実際の効果が数値ほど出ているとは思えない。近年、耕作者の高齢化及び減少により耕作放棄地が増えており、柵などに囲われていない場所を狙って野生鳥獣が侵入し、生活環境被害を引き起こしているからである。これに対応するためには、地元地域の力を借りて効果的な防除をしていくのがいいのだが、高齢化が進んだうえに人が減り、管理されない土地が増え続け、職員の数も減っている現状でそれら全ての面倒を見ていくことは非常に難しく、対応に苦慮している。</p>	<p>山梨県総合農業技術センター主任研究員 本田剛</p> <p>ワナあたりの捕獲数は高く、事業効果は認められる。今後も継続した対策を期待したい。</p>	<p>被害金額については目標を大幅に達成し、被害面積についても前年度からは減少している。</p> <p>更なる被害の減少のため、今後も継続して総合的な対策に取り組んでいただきたい。</p>
		R3	・捕獲活動 ・捕獲機材の導入				
		R4	・捕獲活動 ・捕獲機材の導入				
上野原市鳥獣害防止対策協議会	上野原市	R2	・生息状況調査 ・捕獲機材導入 ・被害状況調査 ・緊急捕獲活動	○	<p>被害状況については、豚熱の影響によるイノシシの個体数の減少によりイノシシによる被害は減少したものの、令和4年度からイノシシの子が増加し始めているため引き続き捕獲活動を通して被害の軽減を図ってきたい。ニホンザルによる被害は年々増加傾向にあるため、引き続き神奈川県と協力し群れの生息域の把握を行い、サル用罠の積極的な導入や有効活用を通して被害減少に努めたい。</p>	<p>山梨県総合農業技術センター主任研究員 本田剛</p> <p>ほぼ計画どおりに被害は軽減されている。今後も継続した対策が実施されることを期待したい。</p>	<p>イノシシによる被害の減少が大きく、全体として被害金額、被害面積とも目標を大幅に達成している。</p> <p>更なる被害の軽減のため、今後も、総合的な対策を継続することで、一層の被害軽減を図っていただきたい。</p>
		R3	・生息状況調査 ・捕獲機材導入 ・被害状況調査 ・緊急捕獲活動				
		R4	・捕獲活動 ・捕獲機材導入 ・被害状況調査 ・緊急捕獲活動				
道志村鳥獣害防止対策協議会	道志村	R2	・生息環境管理	次年度再評価	<p>生息環境管理により、森林の見回り監視等が増えたので概ね計画通り捕獲が実施できた。令和4年度捕獲実績、シカ200頭、イノシシ18頭。目標が未達成となった理由は、防護柵の設置(単鳥獣害防除事業)など鳥獣害防止に総合的に対策を講じているが、防護柵の倒木や土砂による一部崩壊が原因の1つである。報告や現況確認した崩壊箇所は随時修復を行っている。</p> <p>被害が多い地域には、道志村猟友会に罠設置を増やす等の対策を依頼し一定の効果は出ているが、想定以上に被害が出てしまっている。</p> <p>また、農家個々の被害防止に対する関心を高めるため、村単独で防護柵の補助を行い、被害の減少を図っている。</p>	<p>山梨県総合農業技術センター主任研究員 本田剛</p> <p>複数の事業を活用し、多角的な対策が実施されている。目標には及ばなかったが、今後も継続して対策を実施することにより、被害が低減されることを期待する。</p>	<p>獣害防止柵の破損などを要因として、被害金額・被害面積とも目標を達成できなかった。</p> <p>今後も、引き続き総合的な取り組みを行い、被害の減少を図っていただきたい。</p>
		R3	・生息環境管理				
		R4	・生息環境管理				
忍野村鳥獣害防止対策協議会	忍野村	R2	・緊急捕獲活動 ・捕獲機材の導入	○	<p>新規就農者確保対策助成制度で、若い世代の実施隊への加入があった。電気柵の購入助成事業でシカ、イノシシ等の侵入を防げた。箱わなの落とし戸センサーを導入して捕獲頭数が増えた。猟友会に箱ワナのエサ入れと見回りを依頼し、捕獲頭数が増えた。ICT囲いワナを導入し、状況をリアルタイムで確認しながらシカ、イノシシの捕獲に成功した。</p>	<p>山梨県総合農業技術センター主任研究員 本田剛</p> <p>ICTの活用により、捕獲の効率化されているようである。今後も継続した対策を実施することで、被害が低減されること期待する。</p>	<p>ニホンジカによる被害の減少が大きく、全体として被害金額、被害面積とも目標を大幅に達成している。</p> <p>更なる被害の軽減のため、今後も、総合的な対策を継続することで、一層の被害軽減を図っていただきたい。</p>
		R3	・緊急捕獲活動				
		R4	・緊急捕獲活動				
富士河口湖町鳥獣害防止対策協議会	富士河口湖町	R2	・捕獲機材の導入 ・追い払い活動 ・講習会開催	○	<p>実施隊を7班に編成し、各班で年間を通じ定期的に鳥獣を山に追払う活動を実施した。又、鳥獣が農地や町中に出没した際は、緊急に出動し農作物や人的な被害が出ないよう鳥獣を山へ追払い数日間の見回りを実施した。令和4年度において、ニホンザルは令和元年度に群れで捕獲することができた為撃情報も減少傾向にあったが、他の鳥獣の出没件数が多く被害額及び被害面積が目標値を超えた箇所もあったが、捕獲わなの増設や実施隊の活動の成果から、捕獲頭数も多く捕獲できており、被害を最小限に抑えられた。</p>	<p>山梨県総合農業技術センター主任研究員 本田剛</p> <p>今後も継続した対策を実施することで、被害が低減されることを期待する。</p>	<p>イノシシによる被害の減少が大きく、全体として被害金額、被害面積とも目標を大幅に達成している。</p> <p>更なる被害の軽減のため、今後も、総合的な対策を継続することで、一層の被害軽減を図っていただきたい。</p>
		R3	・捕獲機材の導入 ・追い払い活動				
		R4	・捕獲機材の導入 ・追い払い活動 ・講習会開催				

丹波山村鳥獣害防止連絡協議会	丹波山村	R2 ・国産ジビエ認証制度取得 R3 ・ジビエ肉推進に向けた研修指導 R4 ・捕獲機材の導入 ・処理施設整備	○	対象鳥獣のうちシカについては、実施隊による継続的な有害捕獲を実施したことや捕獲個体の有効活用に向けた研修指導を行ったことにより、被害金額、被害面積ともに軽減目標を達成し、一定の効果は得られたと評価する。一方、イノシシ、サルの被害については、同様に実施隊による有害捕獲を継続実施したものの被害金額、被害面積ともに目標として掲げた数字には到達しておらず、これまで行ってきた被害防止対策の継続実施に加え、更なる被害防止対策を講じる必要性について検討する余地があるものと評価する。	山梨県総合農業技術センター主任研究員 本田剛 この事業では捕獲および捕獲個体の利用が主な内容となっている。獣害対策には捕獲以外の対策もあるため、被害を受けている農家を対象とした技術情報の提供など、複合的な対策が実施されることを期待する。	目標に達しなかった事項もあるが、被害面積全体としては目標を達成した。また、被害金額についても、目標を達成できなかったものの、前年度からは減少しており、捕獲を中心とした対策の成果が現れていると考えられる。今後は総合的な対策を実施し、被害軽減に努めていただきたい。
小菅村鳥獣害防止対策協議会	小菅村	R3 ・被害防除 ・捕獲機材の導入 ・生息環境調査 R4 ・捕獲機材の導入	○	【R3年度：村内侵入防止柵の点検】 村内では高齢化や離農により過去に整備した侵入防止柵の維持管理が難しくなり、柵の機能が十分に発揮されず農作物被害増加の要因となっていた。こうした状況を鑑み、村内全域の整備済みの侵入防止柵の点検を実施隊で実施し、点検結果を各地区へ共有し、適切な維持管理に向けた啓発を行った。 【R3年度：箱罠の購入】 村所有の箱罠が少なく、捕獲従事者への貸出が十分に出来なかったことを鑑み新たに箱罠を10基購入した。対象鳥獣の出没があった農地や宅地の周辺に設置し、サル2頭、イノシシ3頭を捕獲した。貸出や罠本体については、村役場源流振興課（協議会事務局）にて管理している。 【R3年度：サルの行動領域調査、GPS首輪の購入・装着】 捕獲事業と併せて、サルの行動特性を分析するためにGPS首輪の購入及び装着を実施した。行動範囲が分かったことで、駆逐用煙火による追い払いや住民への注意喚起がしやすくなり、防除に関する住民の機運醸成に繋がった。位置情報の受信は実施隊員や役場職員が手動でアンテナを用いて行っていたが人的負担が大きく、今後GPSによる行動領域調査を継続していくにあたっては効率的な手法を検討していく必要がある。 【R4年度：大型囲い罠の導入】 新たに導入した大型囲い罠によるサルの捕獲が成功したことで、当該地区でのサルの目撃情報や農作物被害が減少し、目標達成に大いに資することができた。囲い罠の欠点としては、一度捕獲があった後サルが警戒し入りにくくなってしまったこと、止め刺しの難しさなどがあったが、特にサルの農作物被害が深刻な当村においては大きな成果が期待できるため、今後も候補地を選定し、順次整備していく方針である。餌やりや日々の見回り・止め刺し・草刈り等の管理については村及び実施隊員で行っている。	山梨県総合農業技術センター主任研究員 本田剛 捕獲、柵の利用、行動調査といった複合的な対策を実施している。また侵入防止柵の点検は非常に重要であるものの、これを事業で徹底する地域は決して多くはない。必要な対策を実際に実行している点は高く評価できる。	被害金額については目標を達成した。また、被害面積についても、目標を達成できなかったものの、前年度からは減少しており、総合的な対策の成果が現れていると考えられる。今後も引き続き総合的な対策を実施し、被害軽減に努めていただきたい。
山梨県	山梨県全域	R4 ・研修会の開催 ・技術実証 ・ジビエ利用拡大	-	被害集落単位で先導的に対策の合意形成を担う集落リーダーが育成され、集落リーダーを支援する体制の構築と共に、集落ぐるみの取り組みの具体化が図られ、集落ぐるみの効果的な鳥獣害対策の継続が可能となっている。 また、鳥獣被害防止対策技術指導員の的確な地域への指導が可能となり、地域での確実な対策の実施が行われると考えられる。今後も、地域ぐるみの鳥獣害対策の計画・実施を支援する体制の構築を図り、地域での確実な対策の実施を支援したい。 ジビエ処理加工セミナーについては、県内でジビエ処理加工技術の普及を図ることを通じて、食肉としてのジビエ処理技術を広めることができた。	-	-

(2) 令和4年度事業評価(再評価)について

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	事業内容	達成状況	事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
甲府市鳥獣害対策協議会	甲府市	R1	<ul style="list-style-type: none"> <li>協議会の開催</li> <li>捕獲機材の導入</li> <li>狩猟免許の取得</li> <li>緊急捕獲活動</li> </ul>	未達成	<p>被害報告からの迅速な対応による、甲府市鳥獣被害対策実施隊の活動におけるくくりわなでの積極的な捕獲により、捕獲数も増加し、イノシシ・ニホンジカの被害は減少傾向にある。罾の動作通知システムの導入による捕獲獣従事者が効率的に活動できるよう支援するとともに、個体数調整の管理捕獲とも調整しながら、継続した捕獲体制の維持を図る。</p> <p>アライグマなどの小型獣及びカラスをはじめとする鳥類の被害は、生息エリアの拡大に伴い被害も増加傾向にあり、中でもカラスによる被害は果樹類を中心に急激に増加した。同実施隊が行っている追払い活動とともに、より捕獲効果の高い捕獲器材の整備と合わせ、暗視カメラによる獣種の特定など効率的な捕獲につながるよう推進体制の充実を図るとともに、緊急捕獲活動による積極的な個体数の減少を図る必要がある。</p> <p>また、ツキノワグマによる被害も1件発生した。全国的においても出没事例が増加する中、農業者への注意喚起とともに、捕獲活動従事者に対しても錯誤捕獲、捕獲鳥獣による誘引事例の発生を防止するよう、適正な罾の設置や、間隔をあげない見回りなど、安全な捕獲活動の実施を指導する。</p>	<p>山梨県総合農業技術センター主任研究員 本田剛</p> <p>アライグマやハクビシンによる被害が増加しているようである。被害が増加し始めた時期に積極的な対策を講ずることで、今後の被害増加が防げるよう留意して頂きたい。</p>	<p>被害金額・被害面積ともに目標には達しなかったものの、被害金額では前年度から引き続き減少しており、捕獲を中心とした対策の成果が出ている。</p> <p>引き続きアライグマ等中型獣類及びカラス等鳥類の生息エリア拡大による被害の増加を防ぐため、捕獲以外の活動も拡充し、被害減少に努めていただきたい。</p>
		R2	<ul style="list-style-type: none"> <li>協議会の開催</li> <li>捕獲機材の導入</li> <li>緊急捕獲活動</li> </ul>				
		R3	<ul style="list-style-type: none"> <li>協議会の開催</li> <li>捕獲機材の導入</li> <li>狩猟免許の取得</li> <li>緊急捕獲活動</li> </ul>				
		R4	<ul style="list-style-type: none"> <li>協議会の開催</li> <li>捕獲機材の導入</li> <li>緊急捕獲活動</li> </ul>				

5 都道府県による総合的評価

一部の市町村で被害金額が増加しているものの、多くの市町村では害金額は減少傾向にあり、事業の成果は現れていると考えられる。今後も地域ぐるみでの総合的な対策を推進し、さらなる被害軽減につながることを図っていく。